

寸劇台本 大條家ゆかりの御茶室物語

電子紙芝居「大條家ゆかりの御茶室物語」の上映の前後に、その内容への導入、知識定着やメッセージ発信のために寸劇を上演します。

登場人物4名。そのプロフィール、キャラクター

- 1)伊達政宗
： ぼけ老人気味 茶室の記憶が気になっている
- 2)17代様(大條孫三郎(おおえだまごさぶろう)／伊達宗亮(だてむねすけ))
： 主人公 若手の殿様
- 3)15代様(伊達道直(だてみちあなお))
： 訳知りの常識人
- 4)みちお
： 山元町町民の元気な今時の少年？少女？
狂言回し役
舞台(右or左)袖位置で、移動なし。

場所

蓑首城址 三の丸 茶室前の庭

時間

昼間

要点

紙芝居前の寸劇

テーマ:紙芝居内容への導入

- ・茶室場所の提示 (坂元 蓑首城址 三の丸)
- ・壊れている茶室現状の提示
- ・2024年度に修復される事の通知
- ・秀吉から政宗への賜りものの伝承
- ・仙台藩で唯一残る茶室であること
- ・残ったのは山元町民のおかげ

紙芝居後の寸劇

テーマ:紙芝居内容の復習／
修復後の茶室活用機運の醸成／
メッセージの発信

- ・2024年度に修復される通知
- ・大條家と伊達姓、菩提寺の徳本寺
- ・山元町民への賛辞
- ・活用は町民自身が

政宗、舞台の左右を行ったり来たり（1往復くらい）。
何やら思い出そうと、もがいている。
腕組む、考える人の手のポーズ、頭をコツコツ叩く、首をかしげる etc

政宗：うーむ、ウーム、思い出せない・・・
私も、もう年だなあ、何も思い出せん！

みちお、政宗が舞台の中央に差しかけたタイミングで。
舞台（右or左）袖（端）にすくと立つ。
政宗に向かって。

みちお：あれっ、伊達政宗さまダ！ どうなされたのですか？

政宗：私の茶室はどーなったのだろう？どこに行ったのだろう？

みちお：政宗さまぁ～ お茶室を失くされたのですかぁー？

政宗、舞台中央。観客に向かって、首をふりながら。
（みちおと対話するわけではない）

政宗：うーむ、豊臣秀吉さまに仕えていた時だった・・・
京都の伏見城のところに。確か・・・
茶室を建てていただいたような記憶が。。
いやいや、分からん、分からん、、、思い出せん。

政宗、退場

みちお、（観客に向かい直り）腕組み。いぶかし気に首をかしげる

みちお：ふーん

みちお、その場にしゃがむ

17代、政宗退場の反対側から登場。ゆったり堂々と。

17代様：私の茶室が、山元町の坂元にあると聞いて、やって来た！
ここが我が大條家の居城 蓑首城址 三の丸だな・・・

17代、手を額にかざして見回す。

17代様：おー、あったあった、これだこれだ！
しかし、エーッ！
ボロボロじゃないか！なんといたわしい姿。
私が大切に使っていた時とは、大分違うぞ！
アーン、あーん。

17代、膝をくずして、泣き崩れる。

15代、小走りで登場。（17代と同じ登場口から）

15代様：おいおい、17代の大條孫三郎よ、泣くでない。泣くでない。

17代の背中をポンポン。17代が立ち上がるのを補助

17代、立ち上がる。

15代と17代は会話する位置関係に

17代様：だって、だって。15代様あー！
貴方様が、伊達のお殿様から、ご褒美に頂いたあのお茶室ですよ、
このブザマな姿！
私が引き継いで、大切に大切に使っていたのですよー。
青葉城下にいる時も、明治になって青葉城がなくなっても、
ちゃんと仙台の支倉町に引っ越しさせて、守ってきた茶室なんです！

15代様：心配するな。泣かんでもいいのじゃ。
2024年度にはちゃんと修復される。こんな姿ではなくなる！

17代様：えっ、ほんとですか？ほんとに信じていいのですか？

15代様：修復することが決まったのじゃ。やっとだなあー。
東日本大震災もあったし、去年の地震もあったし、傷みは増すばかりじゃったが。
私もホッとしているところだ。

17代様：そうなんですな！よかった！ア～、晴れ晴れしました！
ここまで、茶室を探しに来たかいがありました！

15代様：17代の大條孫三郎よ、よーく考えてみてごらん。

たとえ、今はこんな姿の茶室だが、ここに残っていること自体が、
まさに奇蹟！なのだよ、そうは思わんか？

17代様：確かに！
政宗さまは茶の湯がとてもお好きで、江戸時代の仙台藩の武士達は皆、
茶の湯をたしなんでいました。茶室も各家にありましたねえー。
なのに、今や、もうどこにもない！

15代様：そう、ない！
仙台藩の茶室で、たった一つ残っているのが、この坂元のワシら大條家の茶室じゃ。
すごい事だと思わないかい？

17代様：はい、すごいです。奇蹟です！

みちお、立つ。観客に向かって。

みちお：それは、山元町のみなさんが大切に茶室を守って残してきたから！
だから奇蹟的に残ったのだよね！

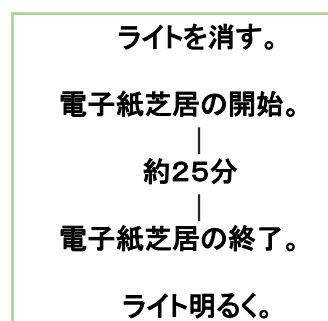
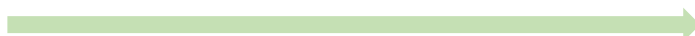
15代様、17代様：そうじゃ、そうじゃ。その通り。
山元町のみなさんには足をむけては寝られんのだ。

15代、17代の2人、肩組して、頷き合いながら退場

みちお：でもー
このお茶室、いつ、どうやって、ここ山元町坂元にやってきたのかなあ？
それにしても、おおえだ って 変な名前だなあ。
漢字は難しいし、読めないよ。
それに、大條家の 今のご当主の苗字は、伊達 っていうんだよ。

訳わかんないや、ややこしい・・・なあ

みちお退場



15代、17代の2人、肩組んでスキップで登場

15代様・17代様：ランランラン！ 2024年度が楽しみだ～♪♪

肩組みを外して、舞台中央、会話する位置関係に

15代様：17代よ、お前は太田孫三郎と呼んでいたが、
伊達宗亮（だてむねすけ）という名前になったのだなあー。
知らなかったヨ。

17代様：はい、明治以降は、伊達宗亮（だてむねすけ）で、出ております。
祖先の名前に戻りました。

15代様：ほら、あのサンドウィッチマンのミキオ！
17代、お前のひいひい孫だろ？
てっきり、太田ミキオかと思っていたよ。

17代様：昭和生まれですからね、伊達みきお ってわけです。

15代様：納得、納得。

政宗、登場。くんと匂いをかぎながら。

政 宗：やっぱり秀吉さまから頂戴した茶室の匂いがする・・・
くんと、くんと、

政宗、舞台中央付近に、観客に向かって立つ

15代、17代の2人、舞台中央から少し裾に下がって片膝ついて

17代様：オー政宗さま！
私達太田家の当主達は、伊達の歴代の殿様に、
ずいぶんとご奉公させていただきました。

15代、17代の2人、しばし首をたれ（片膝をついたまま）

政 宗：そう、そう。大儀であったのー。
なーんたって、
ワシの大切な茶室を山元町に残してくれたのだしな！
褒美をつかわしたいところじゃ。
しかしなあー、ワシはもう年老いて、何も持っておらんのヨ。

15代様、17代様：褒美など、とんでもございません。

政宗、退場。くんと匂いをかぎながら。

登場の反対側の口に

みちお、舞台定位置に立つ。観客に向かって。

みちお：あらまあー、政宗さまったらケチー!!! 残念！
でも、よく考えれば、ご褒美は山元町のみなさんが頂くのが・・・

15代、17代の2人、即、立ち上がる。客席正面に向く。大声で。

15代様・17代様：さよう、さよう、その通り！
ご褒美は山元町のみなさんが頂くべきものです。

政宗乱入・登場。明るくハツラツと走りながら

政宗：さよう、さよう、その通り！
褒美は出せぬが、お礼は言える。

政宗、15代、17代の3人、手をつないで 客席に向かって

政宗：さあ、2人も一緒に。お礼を言おう！

3人、組んだ手を上げ、下げて、お辞儀

政宗・15代様・17代様：山元町の皆さま、ありがとう、
茶室を残してくれてありがとう。

3人、手をほどく。

**政宗、すかさず、17代、15代の方に向く
両手を水を汲む形にして、17代、15代の方に投げる（エア）**

政宗：ほーれ！

17代、15代一緒にキャッチする。両手を水を汲む形にして。

15代様・17代様：おととと。ハイよッ！

即、みちおに投げる(二人一緒に)

15代様・17代様：ホーレッ！

みちお、両手を水を汲む形にして受取る。

みちお：ハ〜イ、受け取った！

**みちお、両手の中を見る。
両手を水を汲む形のまま、両手に目を落としたまま。
驚いたように、大声で。**

みちお：あーッ！ お茶室の バトン だっ！

政宗、15代の2人退場。手をふりながら。

政宗：頼んだゾー!!!

15代様：茶室のバトンを渡したゾー!!!

**エアで
「茶室のバトン」
を、
送り渡す。
政宗→15・17代
→みちお(町民)**

ほーれ！



おととと。ハイよッ！



ハ〜イ、受け取った！



17代が舞台中央に残る

みちお、両手を水を汲む形のまま、立っている（最後まで）

17代様：茶室のバトンが、山元町の皆さんの手に渡された！

茶室の未来は、きっと皆さんに工夫されて
楽しい、いこいの場所になるに違いない。
もう、何も心配することはなくなった。
なんとうれしいことだろう。

さて、そろそろ徳本寺のお墓に戻ろうか。
15代様も戻って行かれたな・・・

17代、退場しながら

17代様：山元町の皆さん！
茶室のバトン、頼みましたぞー！

みちお、両手を水を汲む形のまま、目は17代を見送る

<終了>

客席から拍手

クイズコーナー前の休憩に入る